

ヘルスケア産業の科学的基盤としての大学の役割

実施地域: 全国

コンソーシアム代表団体: 学校法人 慶應義塾

背景・目的

医療・介護周辺分野において、医学的・科学的評価に基づき開発、提供されている商品・サービスは極めて少ない。また、専門的な知識を持ち、適切に実証データを取得、客観的な評価のできる組織が少ないことが大きな課題となっている。一方、大学・大学病院は、研究機関・実証現場としての基盤となるポテンシャルがある。特に慶應義塾大学においては、研究能力、ブランド力等、当該領域において積極的に事業を展開していくポテンシャルがある。

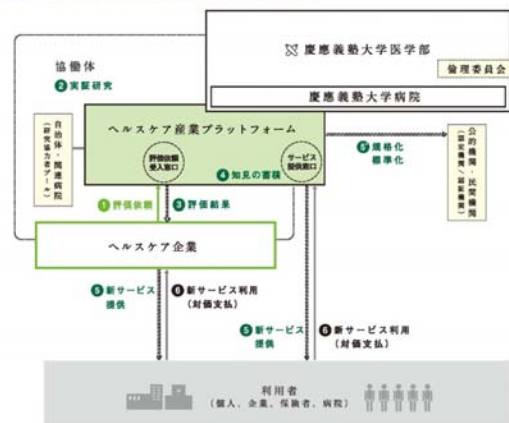
そこで、大学が、保有する新商品・新サービスの科学的評価能力を軸に、大学病院を活用して、企業活動の支援や新しい健康サービスプログラムの企画・開発・提供を行うことにより、医療・介護周辺サービス産業を創出する基盤として機能することを目的とした。

事業概要

定性的調査、定量的調査、先進事例調査等を行い、ヘルスケア産業を創出する基盤に求められる概念を整理し、次のステップとして、大学病院を活用した産業創出支援モデルの構築を行った。そのために、組織内の業務フローの企画立案、必要な規則等の整備など、産業創出支援モデルの内容、運営の方法等について企画立案した。

その結果考えられた、右ビジネスモデル概要図に関して、慶應義塾大学において、企業発及び大学発の2つのモデルにより、産業支援活動を具体的に実施するための検証を行った。さらに、汎用性を持たせることにより他の大学においても導入できるものにするため、マニュアル作成によるモデルの汎用性の確保とともに、周知広報等、産業創出基盤の構築を図った。

事業モデル図

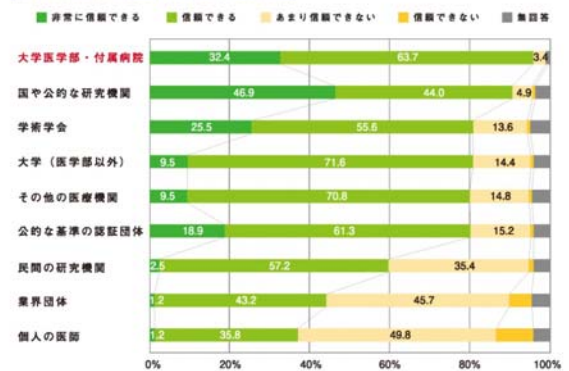


本事業での実施内容・結果

定性的調査、定量的調査、先進事例調査等から、大学医学部・付属病院への高い期待と信頼度が確認された(右図)。また、2つのモデル事業(ピラティスによるエクササイズ効果の科学的評価、職場復帰支援プロセスの可視化と標準化)を実施し、比較研究を用いた科学的評価の可能性の調査並びに、慶應義塾医学部発の新サービス提供に向けた研究・事業実施の可能性を調査した(下図)。

さらなる具体的な事業展開に向けて、論点の整理等を行い、慶應義塾として実施可能なサービスの具体的な内容の検討を有識者を交えたシンポジウム等で行った。

科学的評価に関する機関別信頼度合い



< モデル事例 >

α ピラティスによるエクササイズ効果の科学的評価

ピラティス実施グループ(10名)

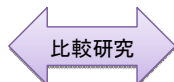


ピラティスプログラム実施風景
@BASIPiラティス三軒茶屋スタジオ

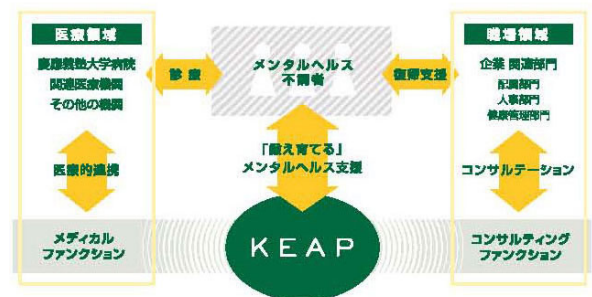
標準プログラム(10名)
(従来型の筋力トレーニング)



標準プログラム実施風景
@BASIPiラティス三軒茶屋スタジオ



β 職場復帰支援プロセスの可視化と標準化 KEAP (KEIO Employee Assistance Program)



今後の取組と求めるパートナー

・今後の取組予定

今回明らかになったいくつかの課題・論点の検討のため、さらなる調査、モデル事例およびマニュアルの検証を行い、具体的な事業化を行うとともに全国の大学への普及展開を目指す。

・協力、連携を希望するパートナーの条件、特性など

大学による科学的評価を受けたい商品・サービスがあるヘルスケア企業、健康増進事業実施者、もしくはモデル事例・マニュアルの検証に協力できるヘルスケア企業・健康増進事業実施者、自治体・大学等